NIE実践報告

1．タイトル：「ふるさと松川新聞」を発行しよう

2．学校名

長野県北安曇郡松川村立松川中学校

3．実践者名（代表者名）

授業実践者・宮澤美帆子　　（ＮＩＥ研究主任・黒岩理恵子）

4．学年

３学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習　　３年全員　１１１名

6．単元（本時の学習課題）名

「ふるさと松川新聞」を発行しよう

7．目標(狙い)

・新聞づくりに取り組むことを通し、地域への理解を深めたり、地域の様々な人間の生き方に触れたりしながら、自己を見つめ自己の生き方を考えることができる。

8．評価の視点

①人間関係力　②情報活用力　③意思決定力

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「ふるさと松川新聞」を発行しよう　全30時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

◆学習展開
①新聞の話題を決める　（2時間）
②取材の方法を学習する　（2時間）
③取材計画をた立てる　（4時間）
④取材に行く　⑤記事を書く　⑥レイアウトを考える　※④～⑥の学習活動は10時間
⑦編集ソフトを使って紙面を完成する　（8時間）
⑧自分たちの取り組みを地域に発信する　（2時間）
⑨新聞作りの活動を見直す　（2時間）
◆留意点
それぞれの学習場面での相手意識を持たせた。（ゲストティーチャーに対する態度や、取材対象者、新聞の読者を意識した学習活動）

11．児童・生徒の反応、感想・意見

地域の方々を取材することで、自分たちの生き方を考えるきっかけになった。故郷に対する愛情を持った。また、作文の苦手な生徒も、取材したことを記事にしようとする姿がみられ、言語活動による学力の高まりを確信した。

12．成果と課題

生徒の「人間関係力」「情報活用力」「意思決定力」に高まりが見られた。専門家や地域の方などに触れな。ＮＩＥ実践で見られた学びの姿は、教科等の学習においても成果として表れている。県の「ＰＤＣＡサイクル支援事業」におけるＰ調査とＣ調査の結果を見ると、学習した内容の意味を理解して活用する力が、本校生徒の中に育っていることがわかった。　今後の本校の課題は、生徒が自己の高まりを自覚し、「学びの意味化」を実現することである。「新聞ができた」「ボランティアで多くの人と触れあえた」等、具体的な経験による達成感や満足感だけではなく、自己についた「生きる力」を生徒に自覚させていきたい。